

科目区分	専門科目・臨床検査医学系		
授業科目名	免疫・遺伝子診断学		
担当者名	責任者 新井 浩和	分担者	寺田幸弘, 高橋直人, 椎名和弘, 三浦昌朋, 成田伸太郎, 植木重治
単位数	2単位(選択)	配当年次	1,2年次
授業形態	講義	実施場所	授業計画の〔実施場所〕を参照
開講期間	科目履修登録終了後に受講者へメールで連絡します		
開講曜日・時間	科目履修登録終了後に受講者へメールで連絡します		
授業の概要・到達目標			
<p>授業の目的: 病態・疾患の診断に特定の遺伝子変化を利用する遺伝子診断の原理と専門的知識および免疫の基本と診断応用などの現状について学ぶことを目的とする。</p> <p>授業の到達目標: 免疫検査および遺伝子診断の原理と専門的知識, 現状を理解し, 免疫検査および遺伝子診断の将来を展望することを目標とする。</p>			
授業計画			
	授業の概要及び到達目標 (授 業 内 容)	担当教員名	講座名 〔実施場所〕
1	<p>遺伝子の数ほどもあると思われる遺伝子疾患の原因遺伝子が次々と明らかになることにつれて, その臨床への応用がなされてきている。遺伝性代謝異常症を例に, 遺伝子診断(保因者診断や家系の解析も含む)の実際, 病態解明への応用, 遺伝子診断が必然的に内包している論理的問題(出生前診断や治療法のない疾患の発症前診断など)などについて解説する。また急速に解明されている免疫学とその疾患病態あるいは臨床応用などについて解説する。</p> <p>血液疾患, 腫瘍性疾患, 先天異常症, 遺伝性難聴, 免疫疾患など遺伝子診断および免疫学検査の臨床における重要性は大きなものとなり, 治療方針の決定などに関わるようになっていく。出生前診断など遺伝子診断が力を発揮する場合も多く臨床上の課題となっている。</p> <p>また, 薬理遺伝学は薬剤の選択や投与量の決定など臨床医療の現場で大きな力となっている。</p> <p>遺伝子診断の基礎と応用を理解してもらうとともに, 興味のある分野では深い専門知識を得, 将来の問題解決への課題を見出せることが望まれる。また, 免疫学の専門知識を得てその臨床応用への広がりも学ぶ。</p>	新井 浩和	小児科学 〔講座医局〕
2		植木 重治 守時 由起	総合診療・検査診断学 講座 (講座医局もしくはweb)
3		寺田 幸弘	産婦人科学 〔講座カンファレンスルーム〕
4		高橋 直人 池田 翔 北館 明宏	血液・腎臓・膠原病 内科学 〔講座カンファレンスルーム〕
5		椎名 和弘	耳鼻咽喉科 〔同科カンファレンスルーム〕
6		三浦 昌朋	薬物動態学 〔講座研究室〕
7		成田 伸太郎	腎泌尿器科学 〔泌尿器科 カンファレンスルーム〕
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
成績評価の基準と方法			
講義室(研究室)での講義30時間+自学自習15時間, 計45時間で1単位とし, 評価は出席状況と提出したレポート等の内容を総合的に評価して行う。			
問い合わせ先(氏名, メールアドレス等)			
新井 浩和, arahiro@med.akita-u.ac.jp			
その他特記事項			
履修に関する情報: 社会人大学院生など, 勤務等で実習に出席できない場合には日程の調整に応じます。			
教科書・参考文献: 必要に応じて資料を配付する。または, 文献を指定する。			
自学自習時間における学習内容: 到達目標や授業内容に応じた準備学習を行うことが望ましい。			